

とよとみひでよししゅいんじょう
豊臣秀吉朱印状

紙本墨書・折紙（掛幅装） 縦 45.5×横 68.0

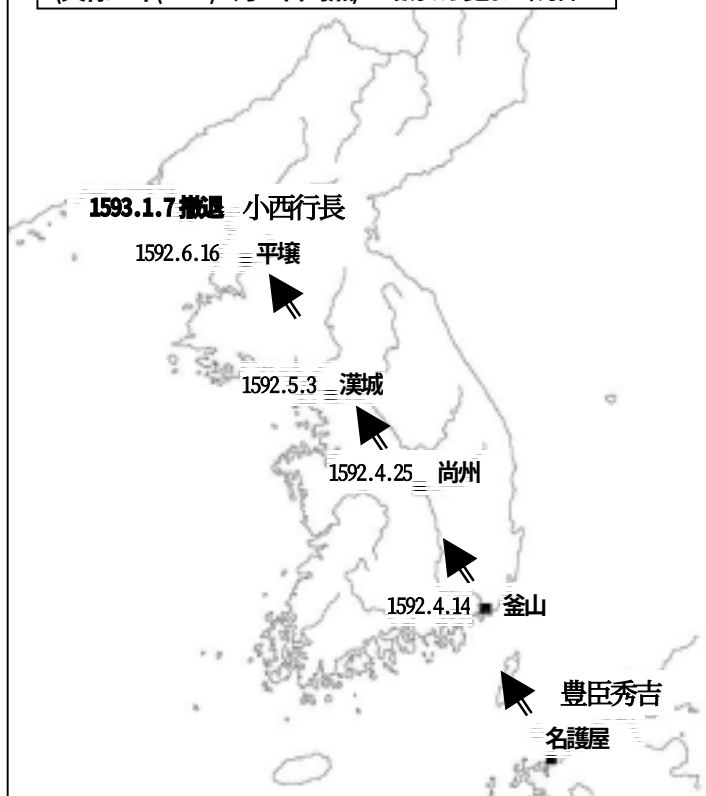
文禄2年(1593)カ 正月8日付

八代市立博物館所蔵



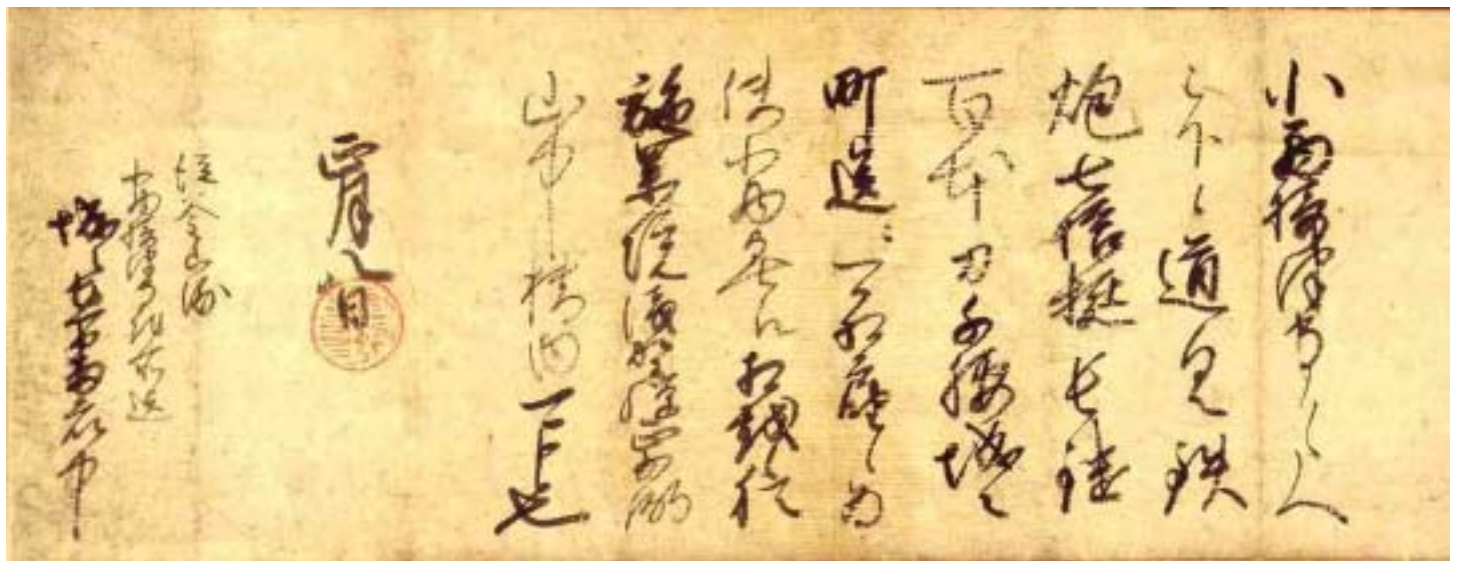
秀吉朱印部分

小西行長の朝鮮半島における進路概要図
(文禄2年(1593)1月8日時点) ※数字は到達した年月日



豊臣秀吉による朝鮮出兵の時の朱印状です。内容は小西摂津守(行長)のもとに鉄炮・長鎗・刀などの武器を届けるように、釜山から行長の陣までの城々の在番衆に命じているものです。この朱印状は小西行長が先陣を務めた文禄の役(壬辰倭乱)、特に文禄2年(1593)正月8日のものと推定されます。行長は前年6月に平壤に入り、この当時まで平壤城を占拠していましたが、この朱印状が出された前日に明軍に包囲され撤退しています。おそらく秀吉はこのことを知らないままこの朱印状を発給したと考えられます(このとき秀吉は名護屋にいました)。

この当時、八代は小西行長の統治下にありましたが、行長に関する現存資料はあまり残っていません。しかし、近年の麦島城の発掘調査により、行長が朝鮮半島から持ち帰ってきたと考えられる李朝系の瓦が数多く出土しています。こうした点から考えると、この朱印状は八代統治時代の行長の動向と秀吉との繋がり、さらに麦島城との関係を考える上でも貴重な資料といえるでしょう。



「小西摂津守」と
いうのが行長の
ことだよ！



※1 (行長)
小西摂津守かたへ

被下候道具鉄

炮七拾挺・長鑓

百本・刀千腰、城々

町送ニ可相届候、為

使小西与七郎相越候、猶

※2 (全宗)

※3 (長吉)

施薬院・浅野弾正少弼

※4 (長俊)

山中橘内可申候也、

正月八日 (秀吉朱印)

従釜山浦

小西摂津守地所迄

城々在番衆中

※1 小西行長 (?~1600、弥九郎・摂津守、洗礼名アウグスティヌス)

堺の豪商小西立佐の二男。織豊期のキリシタン大名。天正 8 年(1580)頃から豊臣秀吉に仕えて功績を重ね、天正 16 年(1588)には肥後宇土・八代を与えられ肥後半国を領する。秀吉の朝鮮出兵では先陣として派遣され、講和にも尽力。慶長 5 年(1600)の関ヶ原の戦いでは西軍に属し敗れ、京都で処刑された。

※2 施薬院全宗 (生没年未詳)

京都の医師。もとは比叡山の僧侶で、織田信長の比叡山焼討の後に還俗。その後医術を修め、秀吉の侍医となって近侍。秀吉の推挙により朝廷から施薬院使に任じられ、施薬院と改姓。文禄の役に際しては秀吉に従って肥前名護屋に在陣した。

※3 浅野長吉 (1547~1611、弾正少弼・長政)

豊臣秀吉の家臣。天正 11 年(1583)、賤ヶ岳の戦いの軍功により近江 2 万石。天正 15 年(1587)には若狭小浜 8 万石を領し、五奉行の筆頭として活躍。文禄の役の際には初め肥前名護屋にあり、文禄 2 年(1593)3 月に朝鮮半島へ派遣された。

※4 山中長俊 (1547~1607、橘内・山城守)

豊臣秀吉の家臣。はじめ、柴田勝家・丹羽長秀に仕えるが、後に秀吉に召し出されて右筆(文書を書くことをつかさどる人)を勤める。文禄の役の際には肥前名護屋に在陣。